

# 「落第忍者乱太郎『京都の森を守ろう』ウオーク」を開催

京都三山でも、カシノナガキクイムシ(カシナガ)が媒介するナラ菌により、ナラ類、シイ、カシ類などが集団で枯れる「ナラ枯れ」の被害が広がっています。

※ナラ枯れについては『カシノナガキクイムシによる『ナラ枯れ』の被害とは』を参照ください。

平成23年7月23日(土曜日)、京都東山周辺及び高台寺山国有林で、国際森林年記念「落第忍者乱太郎『京都の森を守ろう』ウオーク」を開催しました。

当日は、天候にも恵まれ、親子294人の方に参加いただきました。

このウオークは、森の中でスタンプラリーや、自然を使ったゲームを楽しみながら、子供たちにもこの森の現状を知ってもらおうと、京都大阪森林管理事務所、朝日新聞社、京都伝統文化の森推進協議会、京都森林インストラクター会等と協力して開催しました。



## 1. コースの紹介

①知恩院三門前に集合／三門で記念撮影いざ出発



②カシナガ被害について説明を聞く参加者



④第2チェックポイント/ナラ枯れ木の伐採見学



③第1チェックポイント高台寺山山頂公園



⑤清水山山頂(標高242.5m)



⑥第3チェックポイント/清水寺GOAL

ゴールとなった清水寺では、まず、大西清水寺執事長から子どもたちに京都東山の状況や森を守る



守ることの大切さについて説明があり、次いで、京都インストラクターによるウオークのおさらいを行った後、スタンプラリーの抽選会を行い、参加者の大きな拍手と笑顔で終了しました。





# 「使って守ろう京の三山 ～ナラ枯れ木搬出薪割り大作戦！ &ウオーク～」を開催

12月10日(土曜日)に、高台寺山国有林を中心に、「使って守ろう京の三山～ナラ枯れ木搬出薪割り大作戦！ &ウオーク～」を京都大阪森林管理事務所、京都伝統文化の森推進協議会、朝日新聞社などの共催により開催しました。京都市内の森林では、カシナガによる樹木の枯死被害が発生しています。このイベントでは、このような京都市内の森林の状況を薪割りやウオークを通して自分の目で見て知ってもらうこと、枯死木の有効活用を図ることなどを目的に開催しました。イベントには、一般参加者など総勢292名が参加しました。

**◆ウオーク** 約170名の参加者は、午前9時に三十三間堂集合し、10班に分かれて東山山頂公園に向けて出発しました。箇所箇所、森林の状況など京都森林インストラクターの説明を聞きながら紅葉の残る初冬の森を散策しました。

①三十三間堂に集合し出発



②阿弥陀ヶ峰国有林散策



**◆薪割り大作戦** 参加者の協力で作成した薪(1500束)は、登り窯で作陶する陶芸家、ハイアットリージェンシー京都及び地元料理店などに納入することができました。また、一般家庭からも使用条件付き(5月末までに使用)で購入していただきました。

お屋には、暖かい豚汁と炊きたてのご飯をみんなで食べました。



●人海戦術で材料を運搬



●思い思いの道具で薪割り



●割った薪を結束してできあがり



参加者で記念撮影



# 国際森林年にあわせた植樹行事

## ◆オオクワガタの棲める森づくり

11月16日(金)、12月11日(日)の2日、大阪府箕面市の箕面国有林(エキスポ'90みのお記念の森)で「オオクワガタの棲める森づくり」の植樹祭を開催しました。

この取組は、ヒノキ、スギを伐採した跡地を、クヌギ、コナラなどの落葉広葉樹林に転換することによって、昆虫の宝庫である箕面の山でオオクワガタの棲める森をつくらうというもので、箕面市内の幼稚園や小学校のこどもたちによって集められたクヌギ・コナラなどの種子(ドングリ)を、市民の皆様にご家庭で育てていただいた苗木などを植樹しています。



## ◆「第9回トラックの森」づくりを開催

10月5日(水曜日)、銀閣寺山国有林において、国際森林年記念行事「第9回トラックの森」づくりが開催しました。「全日本トラック協会の地球温暖化対策の一環事業として、トラックの森」づくりは、森林の保護育成を図ることで、地球温暖化の大きな要因となるCO2の削減に寄与することを目的として、平成15年度の「トラックの森」設定から9回目を迎えました。当日は、ナラ枯れ木の伐採跡地にヤマモミジの記念植樹が行われた後、マツのある景観の再生を目指す「古都のマツの緑復活プロジェクト」の一環として整備を行っている箇所、24名のトラック協会関係者、フィールドソサイエティ18名の参加により、長谷川氏(大文字保存会所属)のマツの植樹指導の受け、抵抗性マツ200本を植樹しました。



## ◆北白川小学校3年生が銀閣寺山国有林で植樹体験

11月8日(火)、銀閣寺山国有林で、北白川小学校3年生約70名による植樹体験を実施しました。子どもたちは、歩道を10分程度登り、長谷川氏(大文字保存会所属)や当所職員等の指導のもと、枯れ葉を除き腐葉土を掘り起こしながらマツの苗木を一本一本不慣れな手つきで木の根や石に悪戦苦闘しながらも、抵抗性マツ120本を植栽しました。





# 国際森林年にあわせた森林環境教育

## ◆夏休み子ども「消費者の部屋」でパネル展示や親子木工教室を開催

7月28日(木曜日)・29日(金曜日)の2日間、『みんなつながっているよ！自然も人も農業も』をテーマに、「特設！夏休み子ども『消費者の部屋』」を近畿農政局と当所の共催で開催しました。展示コーナー「森林の部屋」では、二酸化炭素の吸収や生物多様性の保全など、森林のはたらきについてのパネルを展示して、来場者に説明を行いました。また、ヒノキ丸太の年輪あてクイズも行い、2日間で117名の親子にチャレンジしていただきました。「夏休み親子木工教室」には、一般から40組の応募があり、抽選で京都市内に住む親子30組68名に参加して頂きました。子どもたちは、木の円盤やどんぐりなどの材料を利用して、思い思いに創造力を働かせながら創作を行いました。

★展示コーナー「森林の部屋」



★「夏休み親子木工教室」



## ◆「森林環境教育セミナー」を開催

8月10日(水)に「森林環境教育セミナー」を実施しました。このセミナーは箕面市及び豊中市の小・中学校の教員を対象に、多様で豊かな森林を有する箕面国有林を森林環境教育の場として、利用推進することを目的として行なっています。総勢26名の方がセミナーを受講されました。今回は、森林環境教育事例集の中から「木の高さを目測する」「木の年輪を数える」「間伐・ナメコの植菌」の3つの作業を実施しました。

★間伐体験

★簡易測高機を使って、ケヤキの高さを計測



## ◆幼稚園ほかで出前「木工教室」を開催

8月20日(土)に箕面市立障害者福祉センター「ささゆり園」、11月19日(土)に箕面市立「ひがし幼稚園」、11月20日(日)に箕面市立「なか幼稚園」で木工教室を行いました。会場では、丸太の輪切りや木片、どんぐり、松ぼっくり、小枝などを使って、自由に工作をして頂きました。子ども達は、保護者とともに、とても楽しそうに、自動車やうさぎの置物、くまの顔や壁掛け、えんぴつのキーホルダーなどの作成に取り組みました。



★完成した作品





# カシノナガキクイムシによる『ナラ枯れ』の被害とは

## 1. ナラ枯れ被害の状況

近年、カシノナガキクイムシ(カシナガ)が媒介するナラ菌により、ミズナラ等が集団的に枯損する「ナラ枯れ」が本州の日本海側を中心に発生しています。

カシナガによる被害は、50種類以上の樹木で確認されています。主にミズナラとコナラが枯れますので、「ナラ枯れ」と呼ばれています。しかし、近年、被害が低地へと広がるのに伴い、クヌギ、アベマキ、シイ、カシといった樹木の枯死が増加しています。

被害区域は、平成22年度には30都府県で約33万立方メートルと拡大傾向にあります。



H21年銀閣寺山国有林周辺で発生したナラ枯れ

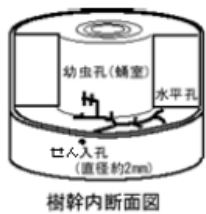
## 2. ナラ枯れ発生のメカニズム

羽化脱出したカシナガは、健全なナラに飛来。集合フェロモンによって集中的にせん入し、産卵。このとき、病原菌であるナラ菌を持ち込む。



カシノナガキクイムシ (体長:5mm程度)

持ち込まれたナラ菌は、孔道を伝ってまん延し、樹木の細胞に害を与える。また、卵からかえったカシナガの幼虫は、孔道内で生育する。



樹幹内断面図 (夏から春にかけて樹幹内で生育)

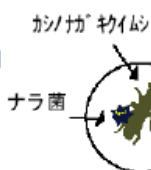


カシナガのせん入により排出されたフラス

ナラ菌が感染した部分の細胞が死ぬと、道管が目詰まりを起こすため、通水障害を起こす。この結果、多くのナラは、7月下旬頃から8月中旬にかけて葉が変色し、枯死に至る。



カシナガのせん入孔

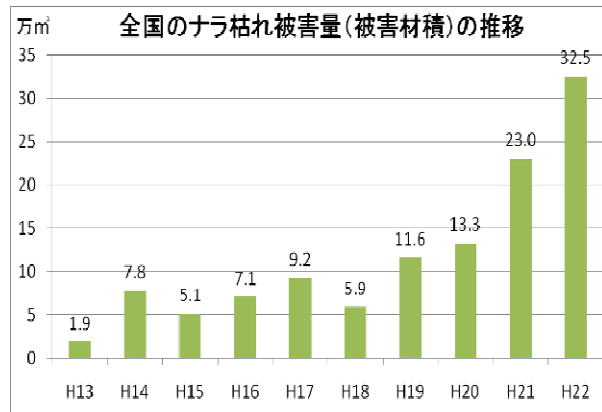


羽化脱出 (翌年の夏)

孔内で成長・羽化したカシナガの新成虫は、主に翌年の6~8月に脱出。この際、ナラ菌が持ち出される



枯れた樹木



## 3. 防除方法 -伐倒・NSC燻蒸処理-

伐倒・NSC燻蒸処理は、ナラ枯れ木を伐倒して長さ1m程度に玉切りシートで梱包する。梱包した被害木にNCS剤を散布して密封することにより、被害木の材内に浸透しカシナガを駆除する。



伐倒

シートで梱包



NCS剤を散布